

学校名： 飯塚市立飯塚第一中学校

1. 単元名「日本の諸地域－関東地方」

4／6時間 授業者：大塚 勝正【3組】

5／6時間 授業者：東 弘平【5組】

2. 授業のねらい

本単元では、関東地方の地域的特色について東京大都市圏の変化を人々の生活や産業と関連づけて考察させる。また、過疎・過密化が進む地域の抱える問題を具体的にとらえ、その課題解決に向けて考察することをねらいとしている。

関東地方は、日本において政治・経済の中心として発達してきた。現在、総人口の約33%の人々が暮らしている。特に東京を中心とした東京大都市圏では、地方圏からの人口の流入が続き、今後も過密化が進行していく。地方圏では、人口の流出により、過疎化や高齢化などの問題が顕著に見られる。この都市圏と地方圏の人口問題は、他の諸地域でも同様に見られ、本単元で人口流出に関する地理的概念を習得させることは、今後の日本の諸地域の学習を行う上でも意義がある。

本時では、関東地方に見られる過疎・過密の課題を設定し、様々な資料を活用しながら、地域的特色を考察した過程や結果を適切に表現する学習を行う。その際に、過疎地域の特色や人口流出の内訳などを資料から読み取り、多面的・多角的な視点から考察する力を養う。

【4／6の主眼】3組

人口の東京圏一極集中により起こりうる問題を考察し、地方圏からの人口流入を抑えるために必要な施策をグラフや資料より読みとり、自分の言葉でまとめることができる。

【5／6の主眼】5組

地方圏への定住化促進について、地方圏の特徴や人口流出の要因を踏まえた上で、将来にわたって活力ある地域社会を維持するために必要な施策について考察することができる。

3. 単元計画 ⇒ 別紙、単元シートで提案。

4. 上記の一連の学習で目指すゴール

関東地方の人々の暮らしや他地域との結びつき、産業について、東京を中心とした都市圏だからこそ見られる特徴や人口の変化による影響に着目させながら考察し、関東地方の地理的特色についての思考力・判断力を養うとともに、習得した地理的概念を自らが住む街に置き換え、これからの未来社会を考える。

5. 生徒の既有知識、学習の予想

関東地方の学習において、東京大都市圏の機能や特色について理解している。しかし、首都には人口が集まるという一面しか知らない生徒がほとんどである。北関東では人口が減少しているという、地域的特色を捉えるには至っていない。本学習では、関東地方における人口流出に着目させ、地方圏が人口流出を防ぐために行っている諸施策を取り上げ、その施策が効果的であるかを判断させることで、大都市圏の人口流出による地域コミュニティのあり方を考えさせる。

6. 期待する解の要素（本時の最後に生徒が上記の課題に答えるとき、話せるようになってほしいストーリー、答えに含まれてほしい要素。本時の学習内容の理解を評価するための基準）

【4／6の評価基準】3組

地方圏にある過疎地域の特徴と流出している年齢別の割合を踏まえた上で、福祉・教育・産業の分野が定住者を増やすために、どのように効果的であるかをまとめることができる。

（例）産業…地方圏から都市圏へと流出している人々の多くは、20～24歳の世代である。この年代の人々が流出しているのは、地方圏に雇用が不足しているからである。地方圏での定住者を増やすためには、産業分野の施策を増やし、働く場所をつくる必要がある。

A	B	C
過疎・過密と人口流出の特徴とその要因について理解し、各施策の効果を資料やグラフから読み取り、課題を解決するための、自分の考えを将来的な視点も踏まえて、まとめることができる。	過疎・過密と人口流出の特徴とその要因について理解し、各施策の効果を資料やグラフから読み取り、課題を解決するための、自分の考えをまとめることができる。	過疎・過密と人口流出の特徴とその要因について理解できているが、各施策の内容と関連付けて意見をまとめることができていない。

【5／6の評価基準】5組

今から子育てをする世帯にとって大切になるのは、「福祉面」である。中学生まで医療費が無償なので、親の立場としては安心して子育てができる。また、家計の負担も減る。地域からの人口流出を防ぐためには、福祉面での施策を充実させることが重要である。

A	B	C
福祉面、教育面、産業面の施策の効果を捉えた上で、地域住民の定住を将来にわたって促進させるために、どの分野を優先するか、根拠をもって説明することができる。	福祉面、教育面、産業面の施策の効果を捉えた上で、地域住民の定住を促進させるために、どの分野を優先するか、根拠をもって説明することができる。	福祉面、教育面、産業面から、地域住民の定住を促進させるために、どの政策を優先するか、根拠をもって説明できない。

時間	学習活動	支援等
15分	<p>1 人口に関する諸課題を確認する。</p> <p>(1) 日本の人口に関する現在の課題や将来的に予測されることについて資料から読み取る。</p> <p>(2) 関東地方の人口の特徴と変化について資料から読み取り、本時の課題について確認する。</p>	<p>○「2025年問題」などの人口に関する諸課題を提示し、人口の推移や内訳の変化に関する資料を読み取らせることで、将来の日本人口を確認させる。</p> <p>○東京への人口の一極集中と地方圏の過疎化を資料から読み取り、地方圏の人口流出について確認させる。その際、他の地域でも同様の問題が当てはまることに着目させ、問題を解決するための必要性を生徒に感じ取らせる。</p>
<p><課題> 人口流出を防ぐために地方圏に最も求められているものは何か考えよう</p>		
15分	<p>2 大都市圏への人口流出に関して考察する。</p> <p>(1) 人口流出についてその理由や問題点を考える。</p> <p>(2) 東京大都市圏へ移住する人々がどのような目的、理由で移住するのか考える。</p>	<p>○地方圏から都市圏への人口流出が続いている理由について、移住者の世代別割合のグラフなどの資料から、どのような世代が移住しているのかに着目し、予想させる。</p>
15分	<p>3 エキスパート活動</p> <p>(1) 人口流出を防ぐために地方圏に何が必要なのか考えさせる。</p> <p>(2) 福祉・教育・産業のグループに分かれ、各資料から人口流出を防ぐためどのような取り組みが効果的であるかを考える。</p> <p>エキスパートA：福祉 高齢者や子育て世代に対しての補助制度や医療・介護施設の充実などを行っている。</p> <p>エキスパートB：教育 授業内容や学校設備の充実を進めており、学校外においても学びの場の提供や文化・スポーツ活動などの推進を行っている。</p> <p>エキスパートC：産業 地域の産業を活発化させることや企業の支援をすることで、住民への働く場の提供を行っている。</p>	<p>○都市圏へ移住する理由や東京への一極集中により起こりうるデメリットを資料から読み取り、人口流出を防ぐために地方圏に何が求められているのか考えさせる。</p> <p>○地方圏における過疎地域では高齢化が進んでいることや都市圏における待機児童、介護施設の数などを資料から読み取らせ、人口流出を防ぐために福祉の充実が必要であることを考察させる。</p> <p>○進学を機に都市圏に移住する人が多いことや地方圏は都市圏と比較して学校数が少ないことなど資料から読み取らせ、人口流出を防ぐためには教育の充実が必要であることを考察させる。</p> <p>○流出する人口の内訳として20～30代の働く世代が多いことや地方圏と都市圏の起業率の違い、地方圏における産業振興の取り組みについて資料から読み取らせ、人口流出を防ぐために産業の充実が必要であることを考察させる。</p>

終末 5分	(3) 資料から読み取った内容をワークシートにまとめる。 (4) 単元シートに、本時の振り返りを記入し、次時の学習内容を確認する。	○次時のジグソー活動に向けて、ワークシートに意見をまとめさせる。 ○本時と次時の学習内容を関連付けるため、単元シートを用いて次時の学習内容を確認させる。
----------	--	---

5 / 6 5組 東 弘平

5分	4 前時の授業内容を振り返る。 (1) エキスパートグループに分かれ、ワークシートにまとめた内容を確認する。	○関東地方に見られる人口の特色を再度説明し、エキスパートグループに分かれ、ワークシートの内容を確認させる。
20分	5 ジグソー活動を行う。 (1) 各エキスパートで資料から読み取った内容を共有する。 (2) 資料をもとに、定住を促すためには、どの分野の施策を優先させるべきかを考察し、グループの意見をまとめる。	○交流の際は、人口流出を防ぎ、定住者を増やすためにはどの施策を最も優先すべきかについて、「どのような人に対して効果的であるか」や「将来的にどのような効果が期待できるか」などを判断基準に、議論させる。 ○各施策がどのように効果的であるか根拠を明確にしたうえで、何を充実させることが先決かを考え、選択させる。
15分	6 クロストーク活動を行う。 (1) ジグソー活動で出た意見を全体で交流する。	○各ジグソーグループが選択した分野とその根拠を発表させる。 ○グループごとに、根拠となる部分の共通点や差異を取り上げる。 ○他者の考えを聞く中で、自分の考えの深まりや、新たな気づきなどをワークシートに記入させる。
10分	○個人のまとめ (1) 本時で取り扱った内容が、全国の地方圏に共通する地域的特色であることを確認する。 (2) 個人に戻り、ジグソー・クロストーク活動で確認した内容を踏まえて、課題に対する自分の意見をまとめる。 (3) 単元シートに、本時の振り返りを記入し、次時の学習内容を確認する。	○事例として飯塚市の掲げる「定住圏自立構想」の施策を取り上げ、学習内容が身近な地域に当てはまることに気づかせ、地理的概念の習得につなげる。 ○課題に対する個人のまとめを行う。その際、課題に対する答えとその根拠を明確にさせる。 ○本時と次時の学習内容を関連付けるため、単元シートを用いて次時の学習内容を確認させる。

8. 各エキスパート・ジグソー＜対象の児童生徒が授業の最後に期待する解答の要素を満たした解答を出すために、各エキスパート・ジグソーで押さえないポイント、そのために扱う内容・活動＞

エキスパート活動では、地方圏における定住者を増やすための施策を、福祉面、教育面、産業面の分野から読み取り、人口流出防止に向け、どのような効果があるか考えさせる。

- ・エキスパート A：福祉面：医療費の助成、介護施設の整備、地域内での見守りや交流
- ・エキスパート B：教育面：学校教育における ICT 環境の整備、特色ある教育活動
- ・エキスパート C：産業面：雇用機会の創出、農業の活発化、創業支援

ジグソー活動では、各エキスパートで読みとった地方圏の自治体が行う施策の情報を持ち寄り、地方からの人口流出を防ぐためには「福祉面」「教育面」「産業面」のうち、どの政策を優先して行うべきかを話し合う。

9. ジグソーでわかったことを踏まえて次に取り組む課題・学習内容

本時で学習した過疎地域（人口流出）の視点を過密地域（人口流入）の視点に置き換え、東京都のオリンピック後やその後に必要な町づくりについて考えさせたい。

10. グループの人数や組み方

- ジグソーグループ 3人×13グループ
- エキスパートグループ A・B：3人×4グループ C：3人×5グループ